

# 地域の問題を知り、討論を通じて解決のきっかけを考えるための分野横断的ゼミ対抗ディベート大会

プロジェクト代表者：柴山 千里

## 1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、後志の直面する課題をテーマに据え、経済学、言語学、法学にわたる多分野のゼミが対抗ディベート大会を行うものである。まず、最初の3回では、各回2～3の試合のテーマのうち、ひとつを小樽や後志の問題とする。それらの大会で扱ったテーマや議論内容を事後検証し、更に改良を加えた形で、小樽・後志が直面する現代的なテーマを選んで、市民に広く公開する形で第4回ゼミ対抗ディベート大会を行った。

## 2. 具体的な取組内容

最初の3回は、5月26日、7月14日、11月24日に開催した。3つのテーマのうち1つを小樽・後志関係のテーマとした。第1回目は「小樽の観光客誘致の対象を日本人主体にするべきか外国人主体にするべきか」、第2回目は「小樽へのカジノ誘致に賛成か反対か」第3回目は「北海道新幹線の新小樽駅は必要か不必要か」を議題にしてディベートを行った。公開ディベート大会では、事前に学内HP、大学のブログ「商大くんがいく!」、プレスリリース、市内公共施設へちらしとポスターを配布するなどして告知し、1月26日に開催した。テーマは、「小樽商大を市街地に移転すべきか否か」「泊原発を再稼働させるべきかどうか」「小樽運河に続く観光地として相応しいのは旧手宮線か天狗山か」であった。事前準備では、グローバル戦略推進センター研究支援部門の高野宏康研究員や小樽市産業港湾部の中野弘章部長のご助言を頂き、インタビューや現地調査、資料収集を行った。

## 3. プロジェクトの成果及び地域への還元

第一の成果は、学生への教育効果である。通常のディベート大会で得られる教育効果(主体的な学習態度、ゼミ生同士のチームワーク、プレゼン・議論する能力の向上)に加えて、学生が小樽や後志に興味を持ち研究したこと、公開イベント成功に向けてゼミ同士のチームワークが醸成されたことが上げられる。

第二の成果は、公開ディベート大会により、様々な視点や考えを市民に提供できたことである。市街地の会場を借りられず学内で開催したせいもあり、見学者は10名ほどであったが、アンケートの回答では、好意的な意見が多数であった。



第4回ディベート大会の様子

井上典子ゼミ(管理センター)・小林友成ゼミ(企業法務科)  
中島大樹ゼミ(経済学類)・柴山千佳ゼミ(経済学類)

小樽商科大学地(知)の拠点整備事業プロジェクト

### 4ゼミ対抗ディベート大会 2016年度最終決戦!

日時：2017年1月26日(木) 14:45～

会場：小樽商科大学4号館160番教室

第1回戦 小樽商科大学校地について(開始予定14:45)

「小樽商大を市街地に移転すべきか」

賛成側：小林ゼミ vs. 反対側：中島ゼミ

第2回戦 泊原子力発電所について(開始予定15:35)

「泊原発を再稼働させるべきか」

賛成側：柴山ゼミ vs. 反対側：小林ゼミ

第3回戦 小樽市の観光地について(開始予定16:25)

「小樽運河に続く観光地として相応しいのは旧手宮線か天狗山か」

旧手宮線側：中島ゼミ vs. 天狗山側：柴山ゼミ

ディベートとは、ある議題について賛成の立場と反対の立場に分かれて論理的な証拠資料に基づき論理的に立論と討論をし、議論がどれだけ強みがあるかで勝敗が決まるゲームです。各ゼミチームの立場は、自分たちの価値観と関与なく幹事の井上ゼミにより割り振られています。審判は井上ゼミが担当し、2試合を戦ったゼミが優勝となります。それぞれの立場の論拠性を対しコミュニケーション力を尽くして提示しあうゲーム。バトル、ぜひ見に来て下さい!



本学学生・教職員・市民の方、  
どなた様でも自由にご入場  
ご見学頂けます。

問合せ先：産業戦略課 3301号  
chihara@starc.kuic.ac.jp